

# アカゲラ通信



## 野鳥の大きさについて考える

「あの時に見た鳥は何か?」など、鳥の話を伝える際には「大きさ」が重要なカギとなります。

### ◎「全長」に惑わされる

鳥の大きさを示す数値として「全長」が用いられます。まっすぐな状態の野鳥の嘴の先から尾羽の先までの長さを cm または mm で表したものです。しかし、シマエナガとシロハラゴジュウカラの全長は同じ 14cm ですが、尾羽が長く胴が短いシマエナガより、尾羽が短く胴が長いシロハラゴジュウカラの方が大きく見える。というより、実際に体は大きいため大きく見えます。



### ◎頭が小さいと小さく見える? 見え方について

頭が小さい鳥は小さめに見えるように感じます。

また、ふくらとした鳥の方がすらっとした鳥より大きく見えますが、これも野鳥の大きさを全長で表すことにより生じる感覚的なずれでしょう。

### ◎比較できるとき、できないとき

アカゲラ (24cm) とオオアカゲラ (28cm) には 4cm の差があります。この 2 種はしっかりと見れば識別は難しくないですが、大きさが比較でない状態では瞬時に識別できないことがあります（おまけに声もそっくり）。稀に両種が近くにいることがあります、それでもやはり見間違いがちです。

オオタカとハイタカは大きさも識別ポイントですが、1 羽だけで見ても大きさが分からず識別できないことがあります、写真で見ると余計に分からなくなることもあります。近くに大きさの比較対象となるハシブトガラスがいれば少しばかりやすくなります。

### ◎基準の鳥の大きさを覚える

スズメ (14cm)、ムクドリ (24cm)、ハト (32cm)、ハシブトガラス (56cm) は身近な鳥で、昔から鳥の大きさの基準に用いられていますが、この 4 種の大きさを感覚として身につけるといいでしよう。

ヒガラ (11cm) はスズメよりやや小さい、ホオジロ (16.5cm) はスズメよりやや大きい、クロツグミ (22cm) はムクドリよりやや小さい、ヤマゲラ (30cm) はハトよりやや小さい、など。



ただ、ムクドリは旭山ではほとんど見られないため、ヒヨドリ (27cm) を代わりに基準として用いるといいでしよう。全長では 3cm 違いますが、ヒヨドリは尾羽が長ないので体はムクドリとほぼ同じ大きさに見えます。

### ◎木の葉の陰に

木々の葉が茂る夏場、多くの鳥は木の葉より小さく、葉の陰に隠れて姿を見つけにくくなりますが、鳥たちにとってはその方が安全であり、生活しやすいのです。

## レストハウスぼるく通信 2022年6月

旭山記念公園内で撮影された野鳥を対象としたフォトコンテストを開催いたします。

応募作品の中からレストハウスぼるくスタッフ及び皆川昌人さん(「旭山森と人の会」代表)で優秀作上位 20 作品選出。それらをパネルにしてレストハウス内に掲示して人気投票を行い(投票方法後日決定)、最優秀作品に選出された方には「レストハウスぼるくコーヒー無料券」(1年間有効の予定)をプレゼントします! 掲示した写真パネルは撮影者にプレゼントいたします。応募詳細は森の家、レストハウスぼるくの掲示ポスターをご覧ください。

皆さまからの素敵な写真をお待ちしています!

\*応募作品の著作権は撮影者に、使用権はコンテスト事務局であるレストハウスぼるくに帰属します。

\*個人情報はコンテスト事務局にて適切に管理いたします。



## 旭山野鳥メモ③コムクドリ

コムクドリ Chestnut-cheeked Starling *Sturnus philippensis* スズメ目ムクドリ科

北海道と本州北部で夏鳥。越冬地は学名にあるフィリピンをはじめとした東南アジア。世界でも日本周辺でしか繁殖していない。北海道への渡来は4月下旬。ムクドリより若干小さいがほぼ同じ大きさに見える。

開けた場所に接する疎林に住む。旭山では現在繁殖しておらず稀に見られるだけだが、昨年ちびっこ広場での観察情報があり近くで繁殖か？かつて旭山がはげ山だった頃には普通に繁殖していたかもしれない。円山南麓の民家の庭の巣箱を利用したことがあり今後旭山で繁殖の可能性がある。樹洞に営巣、アカゲラの古巣も使う。市内では中島公園、月寒公園、東屯田川遊水地、茨戸川緑地公園等で見られる。



観察しやすく、全体的に白っぽい羽に雄の頬のえんじ色の羽(雌にはない)が印象的で写真映えもすることから、一昨年あたりから人気になってきた。初夏はコムクドリ観察・撮影に出かけてはいかがでしょうか？

## 2022年6月の野鳥トピックス

■今年はアオジが少ない。昨年熊対策で見通しをよくするために園路沿いの笹刈りをしたことと関係があるのか？旭山都市環境林では観察されています

- ・**クマゲラ**:園内での観察情報は少ないです
- ・**アオバト**=6月上～中旬に桜の実が熟すと食べに来ます
- ・**オオムシクイ**:5/27 今年初認、例年6月中旬まで旭山で見られます
- ・**シマエナガ**:5月下旬に幼鳥が巣立ち園内でも観察されました
- ・**ヤブサメ**:6月下旬に幼鳥が巣立つと観察機会が多くなります
- ・**シジュウカラ**:6月上旬幼鳥が観察されましたがシジュウカラは年に2回繁殖し7月中旬以降また幼鳥が出ます。他のカラ類幼鳥はまだです



## 樹木は白い花が多い

ふと気がつきました。樹木に咲く花は白い花が多い(クリーム色も含む)

旭山で見られる自生種で白い花が咲く樹木やつる性木本を季節を追って挙げると、キタコブシ、カスミザクラ、オオカメノキ、アオダモ、ナナカマド、アズキナシ、エゾノウワミズザクラ、シウリザクラ、ミズキ、ホオノキ、ハクウンボク、エゾニワトコ、イボタノキ、マタタビ、サルナシ(コクワ)、エビガライチゴ、シナノキ、オオバボダイジュ、ハシドイ、ヌルデ、ハリギリ、タラノキ、と、ずらりと並びます(他にもあります)。

自生種で白くない樹木の花といえば、ナニワズ、エゾヤマザクラ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ムラサキヤシオ、ツリバナ、マユミ、ナワシロイチゴ、ヤマハギ、といったところで白よりは少ない。

しかし、白くない樹木の花、実はたくさんあります。目立たない花をつける樹木です。上記のものは花らしい形をしていますが、以下のものには花弁にあたるもののがなく、花といわれてもピンとこないでしょう。ヤナギ科、カバノキ科、カツラ、ハルニレ、オヒヨウ、ミズナラ、ヤマグワ、ヤマブドウ、オニグルミ(他にもあります)。

また、アジサイ科のイワガラミ、ツルアジサイ、ノリウツギの白い花に見えるのは装飾花いわゆるダミーで、実際の花は花弁がなく地味です。しかし、装飾花であっても白いというのは何か意味がありそうですね。



○白い花 ホオノキ(6月上旬)



○白くない花 ムラサキヤシオ(5月)



○目立たない花 ハルニレ(4月)



○ツルアジサイの花と装飾花(6月)



公式サイト

「アカゲラ通信」 第102号 2022(令和4)年6月10日発行

(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351